

950222火 本日のレジュメ

19日

24日10時

うつみ

9月10日

1、名簿確認、その他確認連絡 (知事秘書 署名簿提出について)

2、自己紹介

3、今までの経過報告

4、署名簿要望書内容検討

5、院長交渉内容検討協議

6、今後の取り組みについて

23日院長会見?

7、本日の連絡網継走

8、読売記者連絡 (10時まで)

① 手紙 - 吉田

② 読売に (行方不明)

③ (テープ、録音
ビデオ)

④ 読売記者連絡 (10時まで)

連絡、テープ

Handwritten signature and notes at the bottom of the page.

メモ

950222

毛塚先生を支援する患者の会（駒込患者の会）

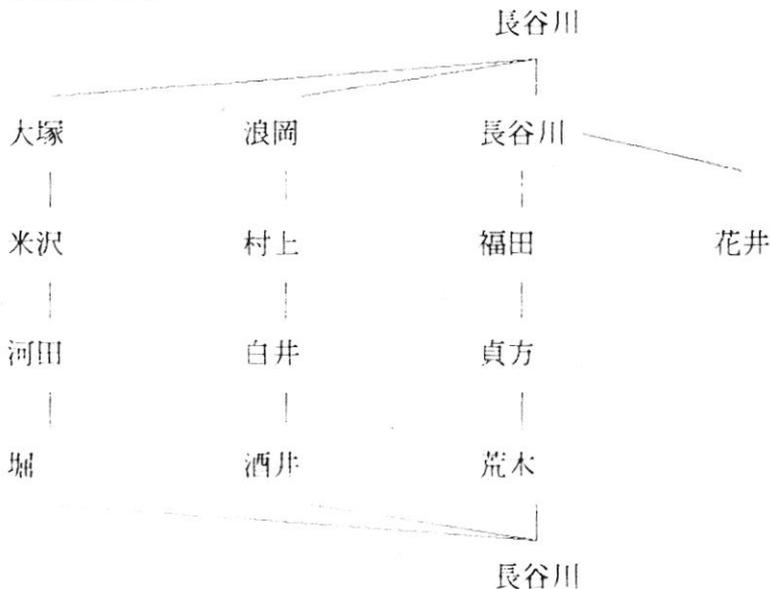
名簿 部外秘

代表委員	代表	大塚敦子	3813-1997	
	副代表	浪岡満子	0429 58 8032	
	連絡書記	長谷川潤	3938-6794	
代表会員		村上 豊 裕	3364 1153	
		米沢ふじこ 子レ子	3946 6603	
		福田 さゆり 幸一	3945 9126	
		河田 よしこ 芳子	0426 36 7458	
		白井 ゆたか 豊	048-255-2061	030-918-0020
		貞方博子	0474-24-5356	
		堀スミヨ	3800-6799	
	取引	取付 酒井まさこ 子	5685-6534	
		荒木みよ	3831-4343	
		花井としこ	3853-1871	

・役割は便宜的なものです。適宜変更を。

・会員はここ数日のうちに連絡を下された有志です。院長会見などの時には出席したいという方がまだまだいらっしゃいます。

緊急連絡網



大塚 → 東工 連絡担当
↓
長谷川
↓
Eメール

*最後の方は長谷川へ連絡を！

*不在の場合はとぼして連絡をして下さい。不在の方がいた場合には直接、長谷川へ連絡

都立駒込病院に心身医療科（心療内科）を
存続させることに関する要望書

住所

氏名 大塚 敦子

電話 381311997

外 名

要旨

- 一、都立駒込病院から心身医療科をなくさないで下さい。
- 二、今まで通り毛塚満男先生を常勤のままにして下さい。

理由

一、病院は誰のためにあるのでしよう。

もちろん、患者のためでしよう。しかし、私たち患者は、病院側から心身医療科に常勤医がなくなることを何も知らされておりませんでした。唯お一人の常勤医の毛塚先生は、患者の不安、シヨックを著しく性質の違う心身医療科です。唯お一人の常勤医の毛塚先生は、患者の不安、シヨックを少しでもやわらげるため、四月以降患者さんを見られなくなる可能性があるかもしれない。「—今までのように常勤医がいなくなるかもしれない。」とだけもらされませんでした。早く耳にした者でも一月の末のことです。このような大事を、病院、行政サイドだけで、ごく短期間に決定することは、命取りとなることもおおいにあります。

二、非常勤医だけにすることは、心身医療科をなくすことになる。

病院側は非常勤で対応していくとお考えのようです。病院側が、このような決定をしようとする^{もの}こと自体が、正に心身医療科への認識がこのような者だったのかと患者一同悲嘆にくれる次第です。

当然のことですが、非常勤の先生だけですと、今までのように、病気を抱えながら社会で活動する人間たちへの、緊急かつ細やかな病状の変化に対応していただけなくなり、社会で手当の薄い、身分保証も常勤とは格段に違う非常勤の先生方は長期にわたって勤務してい

ただけなのは、火を見るより明らかです。(他の施設でのそのような事例は多々あります。)
これでは、何年も通院する患者がいる心身医療科が、^近短く将来なくなることになります。それが、病院側の本当のねらいなので、疑念を持って当然だと思います。

三、精神科があれば心身医療科はいらないと考える人がいるようです。

心身医療科と精神科は違うと思います。

このたびの不幸な阪神大震災の際でも、NHKのニュースの解説では一日とおかず、被災者のメンタルケアの大切さを取り上げていました。小児精神学会も時を置かず子供たちの精神状態のために、会を開き連絡協議をしていました。

読売新聞の人生相談にも、回答者に慶応の保崎秀夫先生が加わる時代です。このような例を上げたら枚挙にいとまがありません。

心の時代と言われながら種々の心身の不調、病気が増加し、その病気にも多様なものが出てきています。

一方で街には精神ケアを銘打って多額の金銭を要求する施設も多くある世の中です。心のケア施設はますます重要になっていくと思われまます。

そのような状況の中で、精神科の先生の中にもいろいろのお考えの違いがあり治療の方法にも差があると聞きます。薬物治療だけに重点をおく方、心のありように手だてをこうじて下さる方、いろいろだと聞きます。そして、患者の中には多くの精神科を渡り歩いて当病院にたどり着いた者もいます。

この様に現代では、心を病む者も多様であり、当然精神科でもなく内科でもないという、境界事例の患者さんがたくさんいると思えます(日本では、心を病むことを恥とする風潮があり、時代が進めば実質的な患者数はもつと増加するでしょう。)

先に挙げた保崎先生も紙上で、病状にあわせて精神科や、心療内科などに気軽に行つて下さいとよく答えておられます。

当病院では、診察室も内科や小児科の近くに目立たぬよう配慮され、その診察も他と違い、治療の方法も独自のものがあります。病状にあわせて時間的にも余裕を持たせて下さつてい

ます。心身医療科は駒込病院の独自性をまさに体现していると思ひます。心身医療科は精神科があれば不要などと考へないで下さい。

心身医療科

四、患者が本當に困つています。非常勤の先生に担当され先生が次々に替わり病状を悪化させた者がおります。その点で当科にかかる患者は、人目を避け職場でも病気を内密にしている者もおります。特別の配慮のある心身医療科がなくなると患者は苦しみのどん底に陥れられます。患者は長期にわたり通院している者が多いです。(二十年近くになろうとする人がいます。)

心の安定にも同じ先生に今後も見てもらうことが何より必要です。薬物治療と精神療法を加えた独自の治療で救われた者が多くいます。非常勤の先生が医羅紗らなくなればそれも不可能となります。不安です。常勤の先生が医羅紗へていただいたりした例があります。非常勤の体制ではそれは不可能です。精神混乱の対処を教へていただく病状が心身医療科にもあります。常勤の先生はぜひ必要です。その為病院の近くに引越してきた患者もいます。他の病院で相手にされず、ここ駒込病院で安定を得た患者もいます。今後どこに行けばよいのでしょうか。

五、赤字の補填を弱者にしわ寄せするのが人に優しい都の行政でしょうか。

住民は短期の利益を追い、行政は長期の利益を考へて施策しようとするために、とかくに利害が対立すると言われています。しかし、これはまるで正反対ではないでしょうか。これを境界的な、精神的と内科をつなぐ医療がますます必要になる時代に、特に精神を病む病気に偏見の強い日本の現状では、これでは、逆行します。このことは、行政の本當の先見性が問われているのと同じであるのではないのでしょうか。短期の利益のみを追うのが公立病院の役目と考へます。本當に人に優しいと思ひます。民間でできぬことをするのが公立病院の役目と考へます。本當に人に優しい福祉政策をと

られるなら赤字の補填を単に医師の数として考えるだけでなく、今まで申し述べた内容から判断していただかないと、赤字をなくすという名目で弱い者いじめをしていることになると思います。

六、都立駒込だからこそ・・・

都立駒込病院は感染症を始め高度の医療の先端をいく病院と伺っています。今まで私たちに接して下さる病院の方々は文字どおり、それを実践して下さいました。心身医療においても拒食症を始め現代の病状に多く応じて実績を上げてこられたと信頼しております。感謝しております。

その先進的な病院から心身医療科が消えてなくなることにつながる常勤医廃止はどうしても納得がいきません。

赤字を何とか解消しようとするご努力も分かりますが、それは患者に向けられることではなく、医療費制度や、他の病院経営など、他に向けて考えられることではないでしょうか。

深いご賢察をもって、真のリストラをお願いしたいと思います。
追記
先にも申しましたが、日頃表に出ることをはばかる者たちが千余りの署名を集めました。気持ちをお酌みとりいただくと同時に氏名の公表などのご勘弁下さい。

私たちは、患者独自の要望を出しております。病院内部の方と画して行動しております。その点は、誤解の内容にお願いいたします。

平成七年二月の月

東京都知事 鈴木俊一 殿

都立駒込病院 医学公報 議長 殿
都立駒込病院 医学公報 議長 殿